

エジプト大統領選挙

エジプト国家社会・刑事研究センターが実施した最新の大統領選候補者に関する世論調査によると、アムル・ムーサ氏が23.2%、ハムディーン・サバーヒー氏(名誉党党首)が5.8%、モハメド・セリム・アルアワ氏(イスラム思想家)が4.6%、アイマン・ヌール氏(明日党創設者)が4.4%、モハメド・エルバラダイ氏が4%となった。調査対象者の内、34.4%は投票する候補者を現時点では決定していないとした。また全体の87.5%が大統領選挙の投票に参加するとの意向を示した。

大統領に求めるものとしては、52.5%が正義・誠実さ・道義心・断固とした態度、40.6%が国民による要求の受け入れ、16.5%が政治分野での経験、13.1%が国内外圧力からの自由度となった。

人民議会選挙が終わった後は、立法権のない助言機関である「諮問評議会」の選挙が1月から3月中旬まで行われ、続いて100人の委員で構成される「憲法草案作成委員会」が発足する(議会から何人の委員が選出されるかは未定)。そして新憲法の制定を受け、6月末までに大統領選挙が行われ、正式な政府の発足と共に軍の暫定統治が終了する予定である。

大統領選までの民主化プロセス



■当資料の情報は信頼できると判断した情報に基づき作成されていますが、情報の正確性、完全性について弊社が保証するものではありません。当資料に掲載されている数値、図表は過去の実績を示したものであり、将来の運用成果および市場環境の変動等を保証するものではありません。■当資料は投資家の皆様にエジプト市場のご理解を高めて頂くために作成した資料であり、証券取引法、投資信託及び投資法人に関する法律に基づく開示資料ではありません。また、特定ファンドの勧誘、販売を目的としたものではありません。■当資料は本来の受信者の社内用途のためだけに提供されています。本資料のいかなる部分も、弊社の事前の書面による同意を得ることなく、その内容の全部または一部を許可なく使用、発信、配布または複写することを固く禁じます。